

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

# 未来へつなぐ

Vol.  
136



文／本間 吾里砂

## 石勝線列車脱線火災事故から十年 「安全の再生」と「企業風土の改革」に取り組み 安全を最優先とした輸送サービスの提供に努めます

### 石勝線の事故を教訓に 企業改革を推進

二〇一二年五月、石勝線で起きた列車脱線火災事故から今年で十年。鉄道事業者としての資質を問われる契機ともなったこの事故は、車輪の剥離やへこみによる振動が部品の脱落を引き起こした原因であることが明らかになりました。これを受けて、JR北海道ではさまざまな側面から「安全の再生」に向けた取り組みを行っています。

その二つが、「膝詰め対話」です。これは、経営幹部が直接現場へ出向き、現場社員と安全について意見を交わすもので、二〇一九年度まで累計約二万五〇〇〇名の社員と実施。また、石

勝線列車脱線火災事故が発生した五月二十七日を「安全再生の日」と定め、安全の基本方針として新たに策定した「JR北海道安全の再生」をベースに、ディスカッション等を行い、事故で得た教訓を風化させないよう努めています。



安全研修館に設置された事故車両。

安全を最優先とする企業風土を醸成するため、研修センター内に事故車両などを展示した「安全研修館」を設置し、全社員を対象に安全研修を実施。二〇二〇年三月時点で累計七二三四名が研修を修了しており、進捗率は約九十六パーセントを達成しています。二〇一九年十月にはグループ会社社員を対象とした安全研修もスタート（二〇二〇年三月時点で累計七九九名、進捗率約五十二パーセント）。そのほか、「安全のルールを守るコンプライアンス意識の醸成」や「危ないと思ったらすぐに列車を止めます」並びに「現地の判断が最優先」の実践など、意識改革とともに異常時対応力の向上を図る取り組みにも力を入れています。

### 人材育成から始まる 命を守るための取り組み

JR北海道では、鉄道の安全を確保するためには社員一人ひとりのレベルアップが最重要と考え、教育体制の充実を図っています。系統別・職種別に体系化して行う「集合研修」をはじめ、「職場内教育」では在来線乗務員訓練用のシミュレータを用い、運転士・車掌の対応力向上に向けた実践的訓練を各職場で繰り返し行っています。自己啓発を目的とした「社内通信教育」は、運転法規・保線技術・電力技術・新幹線電車ほか



在来線乗務員訓練用シミュレータ。

十七講座を開講し、社員の技術向上を支援しています。

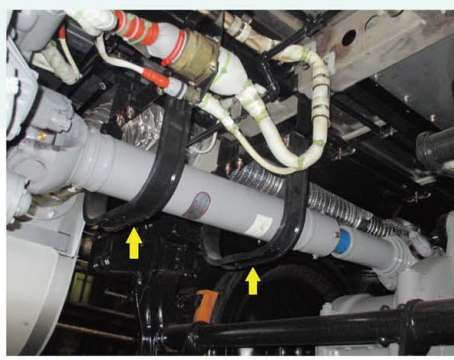
また、「緊急時のお客様避難誘導マニュアル」を制定したほか、列車に乗り合わせた社員が乗務員と協力して避難誘導できるよう全社員が「救護ワッペン」を携帯するなど、お客様と自分の命を守るための仕組みづくりにも力を入れています。

### 重大事故再発防止に向け 車両・設備・管理面を改善

事故の再発防止に向け、車両や設備、管理体制の改善にも取り組んでいます。石勝線列車脱線火災事故の直接的な原因となった減速機の「つりピン」の落下防止対策として、気動車減速機支え装置の構造変更を二〇二〇年十月に完了しました。さらに、減速機とつながる推進軸が垂下することを防ぐ保護枠の追加取り付け（二重化）も各車両で順次行っています。加えて事故の現場がトンネル内であったことから、トンネル

内に照明や一部のトンネルには「トンネル距離標」を設置しました。管理体制については、車輪踏面（※）の検査基準の見直しを行うとともに、車輪踏面の擦傷や熱亀裂等を検出する「車輪フラット検出装置」を苗穂駅構内に備え、車輪踏面管理に活用。検査業務においてもダブルチェック体制を整え、ヒューマンエラーの防止に努めています。

JR北海道は、今後も事故で得た教訓を忘れることなく、企業風土の改革と安全基準の再構築を進め、安全な輸送サービスの提供に努めていきます。



推進軸垂下防止保護枠。

(※)車輪のレールと接する面